

北野天満宮

姫氏原 えり

(2020 年入学 4 期生)

私の好きな京都は「北野天満宮」である。多くの神社やお寺がある京都で北野天満宮を選んだ理由は二つある。一つ目は御土居のある場所が自然豊かで異空間のように感じ、心が落ち着くからである。二つ目は北野天満宮が創建された平安時代の歴史や御土居をつくった安土桃山時代の歴史など一つの場所にさまざまな時代の歴史が詰まっており、魅力的に感じたからである。この二つの理由から私は北野天満宮を選んだ。



北野天満宮は平安京の北西の「天門」にあたる北野にあり、現在の京都市上京区に位置している。全国の日満宮・天神社約 1 万 2000 社の総本社であり、天神信仰の発祥の地であったことから「天神さん」「天神さま」の名で親しまれている。祭神の菅原道真は自らが提唱し実践した「和魂漢才」の精神から学問・至誠・芸能・農耕・災難・厄除など人々の心の支えとなる霊験あらたかな神として奉祀されている。また道真は「学問の神さま」として親しまれており、今でも受験シーズンになると全国から多くの学生が合格祈願に訪れている。

北野天満宮が創建されたのは天暦元年(947)であるが、それ以前から北野には天と地のすべての神々を祀る「地主社」、雷電・火難・五穀の守護として雷神(天神)を祀った「火之御子社」が存在していた。その後延喜から延長(901~931)にかけて菅原道真の怨霊が現れ、清涼殿落雷(930)が起こったことから、雷神は怨霊と観念されるようになった。

平安時代中期の天慶 5 年(942)になると、道真の乳母とされる多治比文子に、天暦元年(947)には近江国比良宮の神主神良種の子である太郎丸に、相次いで道真の託宣(夢に現れて意思を告げる)があった。そして天暦元年 6 月、北野朝日寺の僧最珍らの協力のもと当所に神殿を建て、菅原道真を祀ったのが北野天満宮としての創始とされている。その後藤原氏により大規模な社殿の造営があった。永延元年(987)には一條天皇の勅使が派遣され、国家の平安が祈念された。この時から「北野天満天神」の神号が認められていった。また、江戸時代には各地に読み書きそろばんを教える寺子屋が普及し、その教室には「文章博士」と呼ばれる学界の頂点に立っていた道真の姿を描いた「御神影」が掲げられた。そして子供たちの学業成就や武芸上達が祈られていた。このことがのちに「学問の神さま」、「芸能の神さま」として世間に広く知れ渡るようになった理由である。

社殿は総面積約500坪の桧皮葺屋根を戴いており、本殿と拝殿が石の間という石畳の廊下でつながっている。また本殿の西には脇殿、拝殿の両脇には楽の間があり、複雑な構造となっている。長い歴史のなかで何度も火災にあったが、そのたびに造営修繕された。現在の社殿は豊臣秀吉が慶長12年（1607）に造営したものであり、唐破風や黄金色の装飾など豪華な桃山文化の建築になっている。この社殿は神社建築の歴史を伝える貴重な遺構として国宝に指定されている。



境内には天神さまのお使いとして神牛の像や彫刻が数多くみられる。これは道真が丑年生まれであったこと、道真が大宰府で生涯を閉じたときに遺骸を運ぶ途中で車を引く牛が座り込んで動かなくなったことに由来している。この伝説から神牛は臥牛（伏した牛）の姿であらわされている。だが北野天満宮の拝殿の欄間には一体だけ立った姿の神牛が刻まれており、その理由は今もわかっていない。

菅公御歌「心だに 誠の道に かなひなば いのらずとても 神やまもらむ」

【訳】心さえ誠の道にかなっているならば、ことさら祈らなくても、神は守ってくださるだろう



これは道真が詠んだ歌である。訳だけをみると「神さまが真に偉大ならば、祈らなくても守ってくれるだろう」と考える人がいるかもしれない。しかしその逆であり、真心をもって神棚をまつり、神社に参拝し、真剣に神さまに接する人こそが神の御神徳を受け取ることができるという意味である。

境内西側に広がる史跡「御土居」は天正19年（1591）、豊臣秀吉が外敵の襲来に備える防塁として、また鴨川の氾濫から市街地を守る堤防として、京都の中心を取り囲む形で総延長約23キロにわたって築かれた土塁である。だが江戸時代になると御土居の必要性が薄れ、少しずつ解体されたことから、今は史跡に指定された北区や上京区の9か所でしか見ることができない。その中でも北野天満宮の御土居は当時の様相を色濃く残しており、現在でもその姿を見ることができる。御土居の川沿いには約350本のもみじが植えられており、初夏には新緑、秋には紅葉を楽しむことができる。またこのあたりを鶯が囀るといのが名前の由来である朱塗り



の太鼓橋「鶯橋」などもある。他にも秀吉が御土居を築いた当初からあったとされる樹齢およそ 600 年、幹周り 6 メートルの大ケヤキが植わっている。このケヤキは京の地から大宰府へ東風を吹かせ続けるという意味から「東風」と呼ばれている。

北野天満宮は受験生の合格祈願だけでなく、毎年 2 月～3 月下旬頃には梅苑の公開が行われており、白梅や紅梅、一重、八重といったさまざまな種類の梅を楽しむようになっている。それ以外にも 5 月上旬～6 月下旬頃には御土居の青もみじの公開、10 月下旬～12 月上旬頃にはもみじ苑の公開があり、季節によってさまざまな北野天満宮の姿を見ることができる。また、もみじ苑は夜のライトアップも行っており、昼と夜どちらのもみじも楽しめるのは大きな魅力である。私自身一度しか訪れたことがなく、まだまだ知らないこともたくさんある。これから何度も訪れてもっと北野天満宮の魅力を見つけていきたい。



参考文献

北野天満宮, 2015, 『北野天満宮』 (<https://www.kitanotenmangu.or.jp/>)

京都文化博物館, 2019, 『北野天満宮 信仰と名宝一天神さんの源流一』, 思文閣出版.

瀬田勝哉, 2015, 『変貌する北野天満宮』, 平凡社.

財団法人京都府文化財保護基金, 1980, 『京都の社寺』, 淡交社.